

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1196500332		
法人名	㈱ユニマット リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	浦和ケアセンターそよ風		
所在地	埼玉県さいたま市浦和区本太2-1-2		
自己評価作成日	令和5年2月13日	評価結果市町村受理日	令和5年5月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号
訪問調査日	令和5年3月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

◎オムツゼロ:排泄が困難な状況の方でも、寝たきり状態にならないよう出来る限り排泄はトイレで正しい姿勢を保ち行っていたりできるよう実践。
◎自立支援介護を開設当初から取り組んでおり、現在も継続して行っている。
◎特に日常の水分・栄養・運動・排せつに力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<ul style="list-style-type: none"> ・事業所として「お客様ファースト」の考えのもと、コロナ禍でも「地域とのつきあいの継続」に力を入れ、近くの店へ職員が入居者と一緒に買い物に出かけるなどの取り組みが行なわれている。また、イベントや季節の行事の開催にも積極的に取り組み、職員も様々なアイデアを出し、入居者に喜んでいただいている。さらに複合施設のメリットを活かし、併設のデイサービスとの共存共栄にも今後取り組むことが検討されている。 ・運営推進会議については、文書方式をとり、地域包括支援センターや市役所に提出され、「ヒヤリハットや事故報告書」を付けてほしいなどの意見が出され、対応をされている。今後は集合方式での開催も予定されている。 ・目標達成計画についても、思いや意向の把握で「何が本当の気持ちを向うきっかけになるか」などについて意見交換を行い、過去の仕事や故郷等の話題がきっかけとなることがわかり、現場にも周知されたことから、目標が達成されている。また、災害発生時、職員が同じレベルで対応できるように訓練を通して継続して取り組まれている。
--

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見ると、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見ると、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	職員の入退職があり、理念の共有・実践が出来ているとは言えない。 月1回のグループホーム会議も参加者が固定してしまい、頓挫している。	理念の共有と意識の向上について常に取組まれ、「お客様ファースト」の方針が実践されるよう指導が行われている。「ケアと業務の違い」を明確に、簡単なよう実践しにくいことでもコツコツと取組み、成果を共有するよう取組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の商店での散歩を兼ねた買い物を実践している。	毎日の散歩時の挨拶や近所の店での買い物を通して地域とのつきあいが行われている。米屋、豆腐屋、煎餅屋などに、職員だけでなく入居者も一緒に出掛けられ、交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍でもあり、地域貢献は出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は開催出来ていない。 メンバーには、現状・暮らし・事故・ヒヤリハットの報告を定期的に行っている。	運営推進会議は、現在は文書方式を取り、地域包括支援センターや市役所に提出され、「ヒヤリハットや事故報告書を付けてほしい」などの意見が出され、対応されている。今後は新しい参加者との顔合わせも含め、集合形式で行う予定とされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	特に取り組んでいない。	日常的に判断に迷った時などには相談し、アドバイスを受けられている。また、コロナ禍でのワクチン接種や備品の配付などについても、担当窓口だけでなく、保健所とも連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束及び虐待防止」の会議を定期的に行っている。 事案の発生時は、その都度、会議を開催し、防止に努めている。	身体拘束廃止・虐待防止委員会は定期的に行われ、議事録の作成とそれらをもとにした研修・勉強会が実施されている。また、「これはどうなのか」、「なぜか」などの原因を会議で取り上げ、分析すると同時に対策も話し合われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	同上		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	充分ではない。 今後、定期会議で事業や制度について学ぶ機会を持ちたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、十分な時間を取り、説明を行い、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	出来ていない。	日常だけでなく、ケアプラン作成時には「生まれ故郷に帰りたい」、「職員に対する希望」などが聴き取られている。家族からは「日常の様子や職員の異動について知りたい」などの申し出があり、それぞれに対応されている。	家族からの幅広い意見をお聴きすることは大切と想定されることから、家族全員に運営推進会議の議事録を送られ、意見を伺う取り組みに期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回、定例会議はあるが、意見や提案を運営に反映させているとは言えない。	現場でのケアについて、常に「どうしよう」を皆で考える習慣があり、それぞれのやり方を取り入れるよう努められている。また、イベント実施への提案もなされ、「ストレス緩和のために体操をやりましょう」などの意見が出され、実行されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修の場はあるが、職場のシフトに余裕がなく、十分に取り組みが出来ていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	取り組みされていない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、バックグラウンドを含め、アセスメントを丁寧に取り、入居後は出来ること・出来ないことの要望を聞き取り、記録し、職員間で共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時より家族の不安・要望を聞き取り、契約時、改めて家族の要望等を確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来るだけ入居前の生活が継続出来るよう、趣味・嗜好の把握に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活リハビリの実践を通し、暮らしを共にする関係を築くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会・外出・外泊の制限はなく、家族の役割も意識し、ともに本人を支えていきたいと思っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所との関係は段々と途切れがちになっている。	面会にはあまり制限を設けず、家族や成年後見人の方が来られ、事業所内では馴染みの歌を歌ったりして楽しんでいる。また、入居後、入居者同士が新たに親しくなり、馴染みのつきあいが出来ることがあり、支援も行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握した上で、食事の際の座席や居場所を柔軟に提供している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りによる退居が殆どであり、特に取り組みはしていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らしの希望・意向の把握に努め、介護計画に反映させている。	入居者の話を否定せず、入浴時や散歩のときの会話で、その人の生きてきた価値観、本音を把握するよう取り組まれている。「花が好き」、「山登りをしていた」、「公民館のクラブ活動をしていた」などの情報収集が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしの把握の為、必要に応じて、家族に聞き取りをすることがある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの過ごし方を尊重し、全員一律にならないようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の作成に際し、本人・家族・関係者を交えてのサービス担当者会議を開催している。	介護計画は入居者、家族の要望、職員、看護師、薬剤師の意見を聴くなど、医療とも連携して作成されている。具体的な役割や趣味などを盛り込むよう取り組まれ、毎週花を届けていただき、自室に活けることなどもプランに取り入れられている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践・結果・気づき・工夫は、申し送りノートを活用し、共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組みが出来ていない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の定期往診の他、必要に応じて、往診を受けている。	入居時に医療をどうするか確認され、かかりつけ医への受診には家族が同行されている。日常的には月2回の医師の往診と週1回の訪問看護で医療支援が行われ、内科、皮膚科、泌尿器科などを診ていただき、24時間の体制も整えられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携看護師の週1回の定期訪問の他、必要に応じて、訪問を受け、24時間オンコール体制がとれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、早期に退院出来るよう病院関係者には働きかけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、重度化・終末期の家族の意向を聞き取り書面に残している。 一度に限らず、必要に応じて、家族との話し合いを重ね、共有している。	重度化や終末期に際しては、契約時に事業所としての指針を説明し、方針の共有と支援がなされている。看取りも実施され、日常生活の中で自然に受け止め、最後は家族にも来ていただき、一緒に過ごしていただくなど家族の気持ちに沿った、満足の行くケアが行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルを掲示しているが、定期訓練は充分にできていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域とは、災害時の協力体制を築いているが、コロナ禍もあり、訓練の実践ができていない。	事業所周围の環境から火災や地震の際の避難方法や経路、非常食、備蓄などの確認が行われている。コロナ禍で地域との協力体制作りまでは至っていないが、近隣の特別養護老人ホームをバックアップ施設として連携が図られている。	災害発生は予測が難しいことから、職員全員が同じレベルで対処できるよう、訓練を通して平準化と習慣化を図れるよう取り組まれることに期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉での抑制にならないように対応しているが、難聴の方も増え、つい大声になっている。	プライバシーの確保については、特にトイレ誘導の際の言葉かけで、「トイレに行く」、「出ましたか」などの言葉は大声にならないよう注意を払われている。また、言葉での抑制は虐待に繋がるとの認識のもと、一人ひとりへの尊重にも取り組まれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴介助中に、苦情につながることはあったが、思いを聞き出せた例があった。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全員一律にならないよう、起床・食事時間等も意向に添っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	近隣で洋服の購入を手伝ったり、通販での買い物も支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	フロア中央にキッチンがある。 出来る入居者と準備をし、食器洗い・食器拭き・片付けをしている。	メニューをもとに食材業者に食材を注文し、それらをもとにアレンジ料理なども作り提供されている。好き嫌いもそれぞれの入居者に合わせて対応され、「みんなで食べること」の楽しさを味わっていただけるよう支援がなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の献立表にアレンジをして対応している。 水分量は1日1,500mlが目標。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの働きかけをしている。 希望に応じ、訪問歯科医の口腔ケアも受けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本的に、おむつを使わないケアを実践している。 一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を心掛けている。	理念の考えに基づき、「オムツは使わない」を基本に入居後は布下着とパッド使用に変えて自立を目指すよう支援されている。排泄パターンからの誘導、しぐさや様子からの声掛けなどもそれぞれの入居者に合わせて行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫、水分量・運動量の便秘対策を講じ、出来るだけ、薬に頼らない工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	特別な場合を除き、入浴の時間帯は午後になっている。 要望や必要に応じて支援は出来る。	職員と1対1の個浴で、自立の入居者には見守りを中心に、それぞれのペースを大切に洗身やシャンプーなどでもやれることはやっていたらいい。安心、安全な入浴介助に取り組まれ、シャワーで良い希望にも、湯船に入りたい要望にも応えられている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や休息の支援は出来ている。 就寝・起床時刻も強制はしない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬事故防止の為の服薬マニュアルがある。 状態に応じて、かかりつけ医に用法・用量・減薬の相談が出来る。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味・嗜好を聞き取り、活け花・カラオケ等を楽しめるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の中でも、散歩・買い物の制限はしていない。 家族との外出も可能。	生活が単調にならないようにメリハリをつけ、気分転換を行うことから、外出支援が重要視され、散歩や近隣の商店街に買い物に誘うなどの支援が行われている。また、お花見にも出かけられ、ドライブと歩きの二手に分かれて実施されている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時、お金の所持が可能であることを説明しているが、次第に関心がなくなっている。 お金を持っている方はいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話で、毎日、家族とやり取りされている方あり。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアは、大きな窓があり、明るい。 中央にキッチンがあり、生活感がある。	日当たりの良い窓から季節を感じたり、キッチンからは食事の匂いが漂うなど生活感も感じていたなど、居心地の良い共用空間が作られている。食堂のテーブルの配置、席次などは入居者同士の相性にこだわり、それぞれの居場所の確保もなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアには、数か所、ソファがあり、夫々、定位置がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、使い慣れたものを持ち込んでいただくよう説明している。 仏壇の持ち込みあり。	鏡台や筆筒、仏壇など馴染みのものを持ち込まれ、自宅の延長感が出るような居室づくりへの支援が行われている。居室では読書をしたり、華道の先生だった入居者は届けていただいた花を活けるなど、それぞれに楽しまれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアに段差はなく、各所に手摺りもあり、安全に配慮している。		

(別紙4(2))

事業所名: 浦和ケアセンターそよ風

目標達成計画

作成日: 令和 5年 4月 27日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	運営に関する、特に家族等の意見の反映がなされていない。	利用者様には日常及びケアプラン作成時に、生活に対する希望等を聴くようにしているが、家族より日常の様子や職員の異動等についても知りたいとの申し出があり、家族からの意見を聴く機会として、運営推進会議の現在は文書方式での報告書、議事録を家族に送り、意見や要望を伺い運営に反映させていきたい。	月1回の利用料請求時に報告用紙添付にて送付。	3ヶ月
2	35	災害対策について、コロナ禍で地域との協力体制での訓練実施ができていない。	定期の災害訓練と避難方法、経路や非常食備蓄の確認を行う。	・定期の災害訓練実施。 ・月1回のグループホーム会議時に、避難経路や備蓄の点検、確認を行う。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。